

## H30年度国土交通省「BIM/CIMリクワイヤメント」への対応

|         |                    |
|---------|--------------------|
| 会社名     | 株式会社地層科学研究所        |
| ソフトウェア名 | Geo-Graphia        |
| 適用分野    | 地質・土質              |
| 適用フェーズ  | (調査・予備設計、詳細設計、施工等) |

| 国交省 |                           | 株式会社地層科学研究所  |  |
|-----|---------------------------|--|--|
| No. | BIM/CIMリクワイヤメント項目         | H30年度施策  | ソフトウェアの対応状況  |
| 1   | 契約図書化に向けたCIMモデルの構築（設計・施工） | 新たに策定した「3次元モデル表記標準（案）」をもとに2D図面と連動した3Dモデル作成・活用を実施。      | 30年度中の対応は難しく将来的には対応予定  |
| 2   | 関係者間での情報連携及びオンライン電子納品の試行  | 新たに策定した「情報共有システム機能要件」をもとに3Dビューを活用した関係者間共有、オンライン納品を実施。  | ・関係者間の共有には、弊社ソフトのフリービュー等を利用して対応<br>・オンライン納品対応は未定   |
| 3   | 属性情報の付与                   | 付与すべき属性情報を検討、結果を一覧にとりまとめる。（H30年度からIFCによる属性情報の直接付与が可能に） | ・CIMモデルにおける属性は、別途作成されたCSVデータをプログラム側から参照することにより対応可能<br>・IFCによる出力は、土木モデルビュー定義には現在未対応だが、CADモデルは出力することができる |
| 4   | CIMモデルによる数量、工事費、工期算出      | 3Dモデルでの数量算出のため、改定された「土木工事数量算出要領（案）」をもとに課題や結果をとりまとめる。   | 土量計算の手法としては、4点法にのみ対応、その他の手法は、対応未定  |
| 5   | CIMモデルによる効率的な照査の実施        | 詳細設計照査要領に基づく従来の照査と比較し、3Dでの照査による効率化の程度についてとりまとめる。       | 地質・土質は未対応  |
| 6   | 施工段階でのCIMモデルの効率的な活用       | 施工計画検討を動画によって実施。工事においては計測機器と連携した出来形確認を実施。              | ・施工段階においてCIMモデル（地質・土質モデル）を作成できる<br>・出来形管理に関しては、計測データを面的に捉えることにより、確認することができる                            |
| 7   | その他【現場特性に応じて設定】           | 実施する現場の特性に応じてカスタマイズ。受発注者の協議を介し、3Dデータ活用による生産性向上の手立てを探る。 | ソフトウェアでの対応は特にありません。協議を介し運用で生産性の向上を探る。  |